

## 平成30年度第1回赤穂市総合教育会議議事録

1. 日 時 平成30年5月24日（木） 午後4時00分～午後5時30分
2. 場 所 赤穂市役所6階第2委員会室
3. 出席者
  - (1) 市長及び教育委員会 明石元秀、尾上慶昌、橋本捷一郎、中村良廣、池坂めぐみ、志水矛
  - (2) 事務局 磯家幸和、山内光洋、玉木哲也、桃井次郎、永石一彦、藤本浩士、関山善文、中村光男
  - (3) 説明員 入潮賢和、河本学
4. 会議の概要
  - (1) 開会
  - (2) 市長挨拶
  - (3) 協議事項
    - ・学力テストの現状と向上について
    - ・夢を育む 赤穂47 の取組について（1～8）
  - (4) その他
  - (5) 閉会
5. 協議事項の内容
  - ・学力テストの現状と向上について

委員 学力テストについては、県との比較は同程度とありますが、ばらつき具合はどうでしょうか。勉強が得意な生徒と苦手な生徒がいて、苦手な子は本当についていけないと思います。先生方はよくしてくれるので感謝していますが、難しい問題だと思います。

委員 視覚に訴える授業ということで電子教科書を導入していると説明がありました。以前と違い情報が多くあり、それを視覚で勉強する方法が広まっています。インターネットで情報を得ることができ、様々な手段で自分の学習能力を自分自身で高める時代になったと思います。机に向かうばかりではなく様々な要素で情報を得て、いろいろな場面で勉強ができるので、一概にインターネットが悪とは言えないだろう。時代に合った学習方法が見られます。子ども達は、人前で自分の意見を発言する機会がやや少ないと発表されました。グループの中で話をして自分の意見を発表することもあるだろう。例えば皆の前で歌を歌うことも、人に対する自信が出てくるのではないでしょう

か。その意味でも、夢を育む赤穂47の取組の中で13番や18番のように音楽の分野での教育もどんどん取り入れていただきたい。教室環境については、単にエアコンを設置すれば学力が向上するわけではないと思います。家庭での教育や勉強も大切ですが、できるだけ勉強のしやすい環境を整えることが大人としての務めだと感じました。各小学校で学力向上委員会に取り組んでいます。先生も少しでも子ども達にレベルアップしてもらいたい気持ちでそれぞれの学校で取り組んでいることは、非常にうれしいことだと思います。

委員

新しい学習指導要領の中で育むべき資質能力が3つ出ています。1は知識技能、2は考える力、3は人間性です。また、学んだことを自分の生き方の中でどう活かすか、学びに向かう力と同時に人間性が明確に学習指導要領の中で書かれています。これは今までは無く、画期的なことです。学力や知識については言われていましたが、人間性や人生に活かすための学びについては初めてだと思います。これは知・徳・体の話にも繋がり、教育の目的を学校教育の中で具現化する視点だと思います。教科書の中でそのようなことは書いてありますが、部活動においても同じことが言えるのではないのでしょうか。部活動も知識・技能的な部分があります。どうプレーし、失敗したときはどう改善するかを考える力、また、チームプレーや相手に対する思いやりといった意味で、教科学習と同時に部活動や課外活動を含めて同じことが言え、同じ3本の柱として考える必要があるのではないのでしょうか。3ページのⅢ、教育委員会の施策、(2)取組の中の3つ目、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点をふまえた授業改善と記載していますが、しっかりご尽力いただければ非常にうれしいです。主体的に学ぶことも資質能力の1つです。1つでも得意な教科があるということは、非常に大事なことです。得意であれば、興味や関心のある事柄がたくさん出てきます。学力向上に必ず繋がるので、赤穂市の教育として取り組んでいただきたい。

委員

課題として挙がっていた項目について、克服や成長がみられるのは、先生方の努力や家庭での学習等のおかげだと思います。ICTの利用や少人数でのグループ学習が有効なことの表れだと思います。学力の向上については、中学校においては部活動、小学校でもスポーツ少年団や金管バンドなど勉強以外のことについても力を入れて取り組めば学力の向上にも繋がると思います。学習環境の改善については、さらにICTやエアコンの導入があれば、学力向上に繋がるのではないかと私も考えます。学力の格差については、勉強が得意な子と苦手な子がクラスの中に混在していて先生方も指導するのは苦勞があると思います。グループ学習などで理解している子が理解できていない子に説明することで、理解している子はさらに理解が深まるし、理解で

きていなかった子は理解することができます。また、その中で人間関係を築くことができるので、ますます活動を続けて欲しい。

教育長

全国学力学習状況調査というのは、子ども達にテストをして順位を付け、点数を上げるために競争させることではありません。この結果を踏まえて、授業や生活指導の改善を行っていくための基礎資料として存在しています。その部分を逸脱すると変な話になってしまいます。その事例でよくニュースになるのが、子ども達に過去問をさせることです。だんだんエスカレートして、学力の高い学校の校長の名前を公表して競争し、高校入試に全国学力学習状況調査を使用します。ニュースでは行き過ぎた指導と報道されています。学力に偏重すれば、その結果として全国レベルでも高い成果を出すことができますが、その陰で道徳や体育が疎かになってしまったり、子どもが拒否反応を起こしたりと問題も出てきます。全国的に学力に舵を切っている学校は、生徒指導の問題が比例して増加しています。学力では多少の成果を得ることはできますが、本当にそれでいいのかということです。知・徳・体のバランスの中で学力を向上させていくことが極めて大事だと思います。特に赤穂市の場合は夢を育む教育ということで、子どもたちが夢を持てるような教育をしながら、学力をつけることが大切です。全国的にどこの学校も学力を上げようと頑張っている中で、そのような中で順位を上げることは困難ではありますが、これからも積極的に取り組みたいし、学校は全力で取り組んでいることを理解していただければありがたい。

市長

全国学力学習状況調査の結果が県と比較して同程度と出ていますが、数値を出しているところもあります。説明があったように、調査の趣旨はよく分かります。公表の方法は市町村に任されていますが、赤穂市がどの程度なのかわかりにくいと親が思っているだろう。

世の中の変化のスピードが非常に速く日本だけでは処理できないことや、先が見えず予測ができないことがあります。学力だけでは話にならないことがよく分かります。クラブ活動や家庭教育、地域の中でどうしていくのか。問題が広がり、することが増えることで具体的にどうするのか分かりにくくなっています。一つの事例として、教育環境の整備は、設置者としては当然だと思いますが、金銭的な問題がありますので、計画的にしていかなければならないと思っています。

・夢を育む 赤穂47 の取組について

委員

3番の郷土の歴史については、インターネットの時代なので、子ども達も国際交流が非常に盛んで西オーストラリア州との交流も盛んに行われていると聞いています。外国を訪れた際に、子ども達が日本の歴史を聞かれること

が多いらしいです。日本の説明ができる知識が大切だと思います。自分の国の文化を語らずして、どうして外国の方と付き合いができるのでしょうか。生まれ育った赤穂を深く勉強して、将来立派に説明できるような人になるためにたくさんの時間をとっていただきたい。赤穂義士だけでなく、いろいろな文化や伝統も子ども達にご指導いただきたい。1番の赤穂ドリルについては、読み書きそろばんが基本であり、繰り返し忍耐強く努力することで、基本の学力が身につくのではないかと思います。

委員

学力だけでなく、多方面に渡り力を入れていることがよく分かりました。1番の赤穂ドリルについては、製本したのではなくプリントで繰り返し行うことは素晴らしいと思いました。8番のアートマイルについては、赤穂のことを改めて知ることができたり、海外の学校と交流することにより文化の違いを感じたり、英語について興味をもったり好奇心を持ったりできます。本年度は4校で実施するようですが、より多くの子ども達が体験できるようになることを希望したい。

委員

1番の赤穂ドリルについては、繰り返しできるようになって基礎学力をつけるためにも素晴らしいと思いました。応用力をつけるためには、基礎学力が無ければ、活用の力が高まらないと思います。赤穂ドリルの中で赤穂義士の名前で進んでいくと思いますが、赤穂義士を学ぶことにも繋がると思います。5番の授業のICT化については、使い方を間違えると大きな問題にもなるので、使い方だけでなく恐ろしさも勉強してもらいたい。

教育長

アートマイルは、赤穂発祥の事業です。ユネスコや文部科学省も関心があり、全国で推進校は1,000校を超えたい。全国の教育長会でもパンフレットが配られました。発祥の地なので、これからも継続したいと思います。